

一般社団法人日本色彩学会 美的感性研究会 設立趣意書

2023/04/18 川澄未来子

◆設立動機と目的

日本の色彩環境は風土と伝統を土壌に創られ、その文化や美学は世界から高く評価されてきました。しかし、経済の成熟・衰退や産業構造の変化に加え、気候変動や戦争やコロナウイルス問題などにより混乱した不透明な時代を迎え、日本が誇るべき技術や文化を自覚しにくくなってきています。また、SDGsが目指す持続可能な世界や Society5.0 が切り拓く超スマート社会でも、心に豊かさをもたらすような質的な発展が求められるようになりました。真善美の調和のとれた未来社会を創るためには、単一の分野だけでなく、多様な分野の人材が協力しあう必要があります。

「美的感性研究会」では、“美”の本質についての学術的な探求と、まちづくり・ものづくり・ひとづくりなどへの実践的な展開とを両輪で進め、22世紀の社会創造につながる活動に取り組みます。自然環境、都市環境、照明環境、建築、工業製品、美術工芸品、アパレル、肌、顔、化粧、言語、教育、アート、広告デザインなど多様な分野に携わる会員を受け入れ、また、手法としても光学、工学、データ科学、心理学、脳科学などあらゆるアプローチの会員が交わります。この趣旨に鑑み、自然科学から人文社会科学にいたる広く多様な学術分野の方々、研究・開発からデザイン、教育、コンサルテーションなどの多彩な職業の方々、日本全国のあらゆる地域の方々を会員として募ります。

◆研究会名称

「美的感性研究会」

Special Interest Group on Aesthetic and Affective Science (略称：SIGAAS シガース)

“美”に関心のある人が集まって議論し共創し合う学際的な場になることを願って命名しました。“美”は Aesthetic と対訳し、さらに“感性”を議論する Affective Science を入れることによって、幸福や快適や安心、不安や不調和などの研究まで含むように考えました。愛称は、研究会の英語の頭文字“SIG”に美的感性の英語の頭文字“AAS”を続けて、SIGAAS シガースと発音します。質の高い情報交換や交流が活発にできる“研究のシガーバー”のような存在を目指します。

◆幹事

秋月有紀、浅野晃、川澄未来子、坂本隆、高橋晋也、中村信次、羽成隆司、深井英和、三木学、森友令子、若田忠之、渡邊千穂 (50音順)